

## 佳作

## 言靈の幸ふ國

佐藤健二

我が國は言靈ことたまの幸ふ國さきは、言靈の佐くる國なり。いまや我が言靈は滅びんとす。何故に言靈は滅びんとするや。戰敗いくされ、國民の心に、大和言靈やまとことたまを尊ぶ思ひ失はれしゆゑか。横文字巷ちまたにあふれ、明治の初め漢語かうごの學びの道を盡して横文字を縦文字に改めし先の世の人の熱情も失はれんとす。そは今の世に生きる人みな漢字のみならず美しき皇國言靈みくにことばだにあまた知らざりし故なり。

古事記日本書紀萬葉集にあふれし漢字からもし或は漢語かうごを大和言靈に改めんとする情熱は、そこに籠もりし言靈の幸さきはひを見て、倭歌やまとうたはみな大和言靈にて記すをもつて大和人の魂を留めおかんとする情なり。漢字からもしを大和言葉に置き換ふることのいかに難かりしことよ。そのいと難かりし業わざに挑みたりし大和心あふるる人々よ。あはれ、汝らの思ひの尊きことよ。あはれ、汝らの思ひの氣高きことよ。

「天地初發之時於高天原成神名天之御中主神、次高御產巢日神、次神產巢日神、此三柱神者竝獨神成坐而隱身也」。

こは古事記の卷の頭の詞なり。かくの如き漢字からもしの連なりを、かの宣長大人は「あめつちのはじめのとき、たかあまのはらになりませるかみのみなはあめのみなかぬしのかみ、つぎにたかみむすびのかみ、つぎにかみむすびのかみ。このみはしらのかみはみなひとりかみなりまして、みみをかくしたまひき」と訓

めり。これ古事記に新たなる命の宿りし瞬間なり。

次に擧ぐるは今やあまたの人知りたる持統天皇の御製なり。

春過而夏來良之白妙能衣乾有天之香來來山

此れ萬葉集に載りたる歌なり。人多く百人一首にて知りたり。いささか異なるところあり。しかれども元はこれ萬葉の歌にしてかく萬葉假名にて書きたり。この漢字、皇國言葉にていかに訓みけむ。

はるすぎて なつきたるらし しろたへの ころもほしたり あまのかぐやま

かく訓みし瞬間、漢字に埋れし言靈解き放たれ、その聲國內に響きわたりけり。漢字の我がひらがなとなりし瞬間なり。漢字より解き放たれ、大和文字を得し瞬間なり。美しき大和言の葉は五七の調べとともに千三百年の歲月を繋ぎ繋ぎてその聲なむ今の世に響かせたりける。年の初めに畏き九重の邊りより國內にあふるるその調べに國民舉りて心を一つにし、天皇の御代の彌榮を祈るなり。

萬葉人は、我が國と支那との異なる歌の調べに深き思ひをいたせり。その思ひは、大和言葉にてその調べを述べ傳ふることを得んとす。漢字にてそを書き記す道を見出せし萬葉の人々、また古事記を書き記せし太安萬侶の人知れぬ苦しき思ひを、先の人々は倭歌の史にとどめまた女文字による物語や日記などのたぐひに記しとどめ、近き世まで傳へ來りけり。

江戸の世となり漢籍を學ぶ者時を得、大和心を忘れ、漢籍漢語に魂を奪はれなんとせしとき、契沖現れ春滿眞淵宣長その皇國學びの道を聞き、あまた傳はりし國のを尊び、支那と我が國との違ふ様を明らかにせんとす。これ古學といひ、皇國學といふ。

儒者ども多く支那を以て自らの國の如く思ひ、外國の史は知れども皇國の史は知らず。今の世の横文字好む人々にいと似たりけり。然れども、漢籍の我が國にあまたの物學の道を授けしことは否むべからざることなり。ありがたきことなり。漢語と大和言葉は、異なりし御靈から生まれし言葉なり。その二つの御靈、時にぶつかり時にあひ交じはりて我が國民の心を豊かに育みきたりけり。一の漢字を讀むに、一は皇國言葉にて讀み、一は漢の音にて讀む。訓讀み音讀みそれなり。それ新たなる御靈の姿なり。和漢あひ和す姿なり。

明治の御代となり、更に新たなる外つ國々の言葉、巷にあふれたり。アメリカ、エゲレス、プロシア、フランス、イタリ、様々なる横文字、たちまちにして新知識を誇る若き學徒の心を奪ひ、和魂漢才の心もて生きし江戸の代の人々を脅かしたり。

やがて幾たびか大きな戦起こり、勝ちの果てに大東亞の大戦に破れ、天皇は御護りせしものの爾來七十の年月を経て、あはれ我が言靈の御稜威消えなんとす。皇國學びのみならず漢才も漢字も、アメリカ導く新たなる世にふさはしからぬ古き學びの道としてあらたしき學びの場より追ひやられ、わづかの漢字のみ許され、大和言葉と漢字相携へて育みし我が學びの道は滅びなむとす。先の世の人々の傳へしあまたの學びの書は、戦破れし後は顧みる者乏しくなりゆき、代はりてアメリカの書言の葉世にあふれ、横文字巧みな者あらたしき官僚として國民を導かんとす。あはれ、危ふきかな、大和言葉。あはれ、危ふきかな、大和國魂。過ぎし世の智慧あふるるる學びの御魂よ、庶幾はくはそのまた幸ひたまはんことを。

我が國は天皇の食す國なり。あらたまの年の初めに九重に人みな集ひ雅なる言の葉の聲國の隈に至るまで流れあふるる國なり。されば國民の心にもまた大和言の葉生ひ茂り、言靈の幸ふ國、言靈の佐くる國とこそなりぬべけれ。天皇の御稜威に滿つる國となりぬべし。